

調 査 の 概 要

- 1 この調査は昭和 32 年から住民基本台帳法(昭和 32 年から昭和 42 年までは住民登録法)、住民基本台帳等人口調査要綱及び同要領に基づき、区市町村長から世帯数、人口及び年齢構成を毎年1月1日現在で報告を受け集計しているものである。
- 2 調査内容は、住民基本台帳に記載されている都内の世帯数及び男女数を、区市町村別に町丁(字)別及び年齢別に集計したものである。
- 3 住民基本台帳法の適用が除外されているもの(日本の国籍を有しない者及び戸籍法の適用を受けない者)は、調査の対象としていない。
- 4 町丁(字)制を施行していない地域等については、通常用いている区画(自治会、町会名称等)によることとしたが、利島村、神津島村、御蔵島村及び青ヶ島村については、村を 1 つの区画とした。

利 用 上 の 注 意

- 1 統計表及び図表の数値は、特にことわり書きのない限り、各年 1 月 1 日現在の数値を示す。
- 2 統計表において「－」印は皆無又は該当数字のないことを、「△」印は減を、「0.00」は表章単位未満を示す。
- 3 統計表において構成比を示す数値は、四捨五入してあるため、総数と内訳の合計が一致しない場合がある。
- 4 参考表において市部、町村部の区域は現在の区域に組み替えて表章している。
- 5 町丁名の掲載順は区市町村からの報告に基づいている。

結果の概要

1 1月1日現在人口

平成17年1月1日現在における東京都の住民基本台帳による人口総数は12,161,029人で、前年に比べ86,431人(0.72%)の増加となった。

調査開始(昭和32年)以来の推移をみると、昭和62年までおおむね増加傾向にあったが、翌年以降は減少を続け、平成9年に増加に転じた。その後、9年連続の増加となり、平成17年は過去最高となった。

人口総数を男女別にみると、男性6,047,173人、女性6,113,856人となり、前年に比べ男性は38,815人(0.65%)、女性は47,616人(0.78%)増加した。性比(女性100人に対する男性の数)は98.9で、前年に比べ0.1ポイントの低下となり、平成8年から引き続き100を下回り、男性が女性より少ない傾向が続いている。

地域別にみると、区部は8,183,907人で、前年に比べ54,106人(0.67%)増加し、9年連続の増加となった。市部は3,887,161人で、33,125人(0.86%)増加し、調査開始以来、増加を続けている。一方、町村部は89,961人で800人(0.88%)の減少となった。

(表1、表2、図1、統計表第1表、参考表第3表)

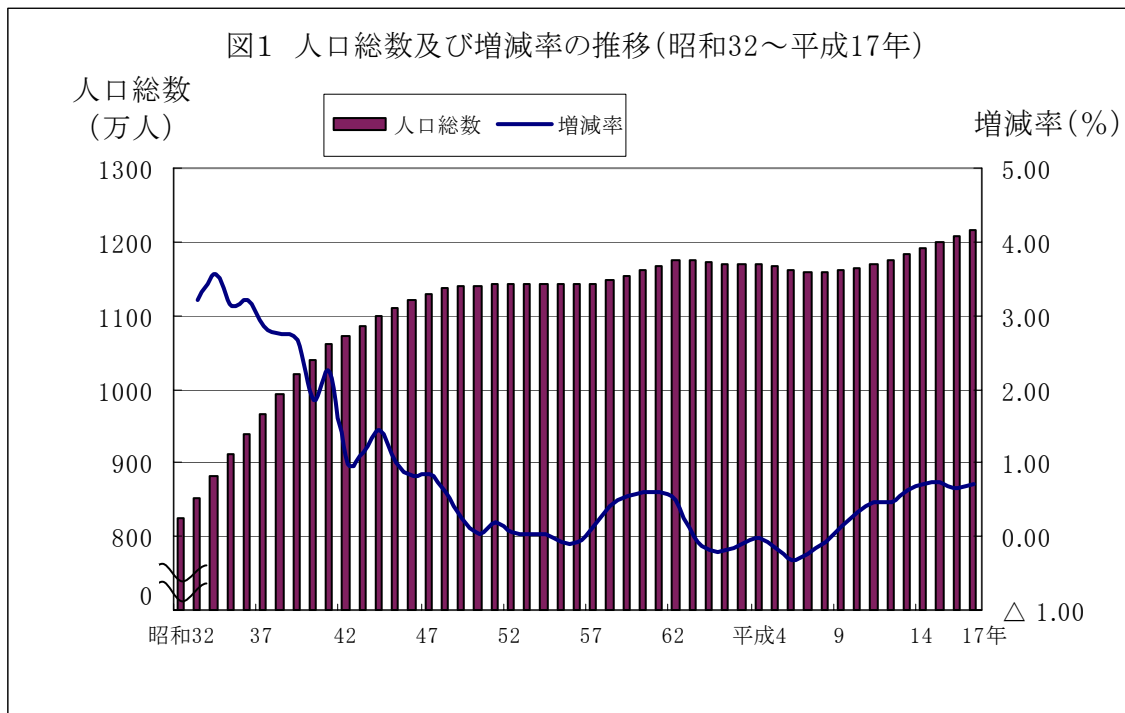


表1 人口総数及び男女別人口の推移(平成7～17年) 各年1月1日現在 (単位 人、%)

年次	総数			男			女			性比
	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率	
平成7	11 598 634	△28 943	△0.25	5 803 315	△20 810	△0.36	5 795 319	△8 133	△0.14	100.1
8	11 587 726	△10 908	△0.09	5 791 829	△11 486	△0.20	5 795 897	578	0.01	99.9
9	11 602 642	14 916	0.13	5 793 911	2 082	0.04	5 808 731	12 834	0.22	99.7
10	11 641 308	38 666	0.33	5 808 485	14 574	0.25	5 832 823	24 092	0.41	99.6
11	11 694 934	53 626	0.46	5 832 504	24 019	0.41	5 862 430	29 607	0.51	99.5
12	11 750 351	55 417	0.47	5 857 130	24 626	0.42	5 893,221	30 791	0.53	99.4
13	11 823 029	72 678	0.62	5 892 229	35 099	0.60	5 930 800	37 579	0.64	99.3
14	11 907 350	84 321	0.71	5 932 231	40 002	0.68	5 975 119	44 319	0.75	99.3
15	11 996 211	88 861	0.75	5 973 910	41 679	0.70	6 022 301	47 182	0.79	99.2
16	12 074 598	78 387	0.65	6 008 358	34 448	0.58	6 066 240	43 939	0.73	99.0
17年	12 161 029	86 431	0.72	6 047 173	38 815	0.65	6 113 856	47 616	0.78	98.9

(注1) 増減数(人) = 当該年の人口総数 - 前年の人口総数
(注2) 増減率(%) = (当該年の人口総数 - 前年の人口総数) ÷ 前年の人口総数 × 100

表2 地域別人口の推移(平成7～17年) 各年1月1日現在 (単位 人、%)

年次	区部			市部			町村部		
	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率
平成7	7 871 159	△ 42 140	△ 0.53	3 634 040	13 091	0.36	93 435	106	0.11
8	7 846 487	△ 24 672	△ 0.31	3 647 690	13 650	0.38	93 549	114	0.12
9	7 846 823	336	0.00	3 662 487	14 797	0.41	93 332	△ 217	△ 0.23
10	7 863 301	16 478	0.21	3 685 048	22 561	0.62	92 959	△ 373	△ 0.40
11	7 892 267	28 966	0.37	3 709 849	24 801	0.67	92 818	△ 141	△ 0.15
12	7 921 476	29 209	0.37	3 736 208	26 359	0.71	92 667	△ 151	△ 0.16
13	7 967 602	46 126	0.58	3 762 984	26 776	0.72	92 443	△ 224	△ 0.24
14	8 023 202	55 600	0.70	3 792 262	29 278	0.78	91 886	△ 557	△ 0.60
15	8 081 959	58 757	0.73	3 822 699	30 437	0.80	91 553	△ 333	△ 0.36
16	8 129 801	47 842	0.59	3 854 036	31 337	0.82	90 761	△ 792	△ 0.87
17年	8 183 907	54 106	0.67	3 887 161	33 125	0.86	89 961	△ 800	△ 0.88

2 平均年齢

平均年齢は、42.48歳と前年に比べ0.26歳高くなっている。男女を比較すると、男性41.13歳、女性43.82歳と女性の方が2.69歳高くなっている。

地域別にみると町村部の45.58歳が最も高く、次いで区部(42.86歳)、市部(41.61歳)の順となっており、いずれの地域でも上昇している。

また、20年前の昭和60年からの推移をみると、すべての地域で男女共、上昇を続け、20年間で男性は7.05歳、女性は7.41歳上昇した。

区市町村別にみると、檜原村の53.56歳が最も高く、次いで奥多摩町(52.53歳)、三宅村(52.26歳)、新島村(50.04歳)の順となっている。最も低いのは小笠原村の38.77歳で、次いで稲城市(39.63歳)、青ヶ島村(39.74歳)の順となっている。

(表3、表4)

表3 区市町村別平均年齢及び年齢(3区分)別人口の構成比

平成17年1月1日現在

地 域	平均年齢(歳)	年齢(3区分)別人口の構成比(%)			地 域	平均年齢(歳)	年齢(3区分)別人口の構成比(%)		
		年少人口 0～14歳	生産年齢人口 15～64歳	老年人口 65歳以上			年少人口 0～14歳	生産年齢人口 15～64歳	老年人口 65歳以上
総 数	42.48	11.89	70.22	17.89					
区 部	42.86	11.19	70.53	18.27					
千代田区	43.71	11.21	68.89	19.90	福生市	41.37	14.02	69.85	16.12
中央区	42.49	10.96	72.25	16.79	狛江市	42.42	11.35	70.35	18.30
港区	43.49	10.05	71.87	18.08	東大和市	41.55	14.52	68.45	17.03
新宿区	43.83	8.68	72.11	19.21	清瀬市	42.94	13.43	66.55	20.02
文京区	43.51	10.20	70.52	19.28	東久留米市	42.45	13.62	67.93	18.45
台東区	46.31	9.45	67.53	23.02	武蔵村山市	41.20	15.10	68.74	16.15
墨田区	44.27	10.86	69.07	20.08	多摩市	41.50	12.21	72.73	15.05
江東区	43.15	11.23	71.24	17.53	稲城市	39.63	15.65	70.99	13.36
品川区	43.57	9.60	71.91	18.48	稲羽村	40.51	15.28	69.78	14.94
目黒区	42.79	9.95	72.28	17.76	あきる野市	42.62	14.51	66.97	18.52
大田区	43.01	11.43	70.38	18.20	西東京市	42.14	13.00	68.73	18.27
世田谷区	41.96	10.79	72.21	17.00	町 村 部	45.58	12.79	64.37	22.85
渋谷区	43.27	8.49	73.55	17.95	郡 部	44.42	12.89	66.44	20.66
中野区	43.06	8.90	72.51	18.59	瑞穂町	41.07	15.34	69.10	15.55
杉並区	42.66	9.53	72.52	17.95	日の出町	46.16	10.73	67.73	21.55
豊島区	44.01	8.44	71.94	19.62	檀原町	53.56	8.50	52.70	38.80
北区	45.39	9.59	68.28	22.13	奥多摩町	52.53	7.96	56.85	35.19
荒川区	44.90	10.95	67.41	21.64	島 部	47.91	12.58	60.18	27.24
板橋区	42.64	11.44	70.62	17.94	大島支庁	48.11	12.20	60.15	27.65
練馬区	41.58	13.12	69.51	17.37	大島町	48.19	11.90	60.66	27.44
葛飾区	42.82	13.20	68.05	18.75	利島村	46.34	11.80	64.59	23.61
立飾区	43.22	12.66	67.90	19.43	新島村	50.04	11.47	57.33	31.19
江戸川区	40.25	14.94	70.02	15.04	神津島村	45.26	14.61	61.46	23.93
市 部	41.61	13.33	69.69	16.98	三宅支庁	51.42	10.16	54.47	35.36
八王子市	41.40	13.51	69.99	16.49	三宅村	52.26	9.72	53.28	37.00
立川市	41.46	13.30	69.98	16.73	御蔵島村	41.70	15.27	68.36	16.36
武蔵野市	42.46	10.67	71.19	18.14	八丈支庁	48.61	13.19	58.89	27.92
三鷹市	41.60	11.97	71.05	16.98	八丈町	48.80	13.06	58.73	28.21
青森市	41.90	14.54	68.47	16.99	青ヶ島村	39.74	19.17	66.32	14.51
府中市	40.67	13.91	70.23	15.86	小笠原支庁	38.77	16.11	73.81	10.08
昭島市	41.94	13.58	69.41	17.02	小笠原村	38.77	16.11	73.81	10.08
調布市	41.21	12.34	71.10	16.56					
調布市	41.84	13.63	69.25	17.12					
町 部	41.40	12.37	70.67	16.95					
小金井市	41.40	12.37	70.67	16.95					
小平市	41.20	14.04	68.67	17.29					
日野市	41.65	13.19	69.71	17.09					
東村山市	42.60	13.71	67.09	19.20					
国分寺市	41.37	12.32	70.72	16.96					
国立市	41.28	13.45	70.09	16.46					

(注1) 平均年齢の求め方は、各年齢(当年と翌年の中央値)ごとに人口を乗じた値を合計し、人口総数(年齢不詳を除く)で除す。

平均年齢(歳) = $\sum(\text{年齢} \times \text{人口}) \div \text{人口総数} + 0.5$

(注2) 年齢(3区分)別人口の構成比(%) = $\text{各年齢区分別人口} \div \text{人口総数}(\text{年齢不詳を除く}) \times 100$

表4 地域別、男女別平均年齢の推移(昭和60、平成2、7、12～17年)

各年1月1日現在 (単位 歳)

地域・男女		昭和60年	平成2年	7年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
総数	総数	35.24	37.24	39.39	41.13	41.41	41.69	41.95	42.22	42.48
	区部	35.89	37.91	40.07	41.68	41.93	42.17	42.39	42.63	42.86
	市部	33.58	35.68	37.85	39.91	40.26	40.61	40.95	41.28	41.61
	町村部	35.07	37.02	40.69	43.32	43.76	44.22	44.63	45.13	45.58
	郡部	33.86	35.90	39.58	42.09	42.56	42.99	43.44	43.95	44.42
	島部	39.45	41.44	43.55	45.68	46.08	46.63	46.99	47.50	47.91
男	総数	34.08	35.98	38.09	39.80	40.07	40.34	40.60	40.87	41.13
	区部	34.64	36.56	38.71	40.30	40.54	40.77	41.00	41.24	41.47
	市部	32.69	34.63	36.73	38.70	39.04	39.38	39.70	40.03	40.36
	町村部	34.00	35.91	39.31	41.75	42.13	42.57	42.97	43.49	43.93
	郡部	32.93	34.92	38.28	40.58	40.97	41.36	41.80	42.35	42.81
	島部	37.95	39.85	41.99	44.02	44.37	44.95	45.31	45.80	46.20
女	総数	36.41	38.52	40.68	42.45	42.75	43.02	43.29	43.56	43.82
	区部	37.15	39.25	41.42	43.04	43.30	43.53	43.76	44.00	44.23
	市部	34.51	36.77	39.01	41.13	41.50	41.86	42.20	42.55	42.86
	町村部	36.19	38.17	42.09	44.92	45.43	45.90	46.32	46.79	47.26
	郡部	34.84	36.93	40.91	43.64	44.19	44.67	45.12	45.57	46.07
	島部	40.95	43.06	45.14	47.38	47.83	48.34	48.70	49.22	49.65

3 年齢別人口

(1) 年齢別人口構成

平成17年1月1日現在の東京都の人口を、年齢構造(人口ピラミッド)で見ると、第1次ベビーブーム世代の55～57歳と、第2次ベビーブーム世代を含む30～37歳を中心とした二つの膨らみを持つ「ひょうたん型」に近い形となっている。

20年前の昭和60年と比べると、24歳以下の人口は男女とも大きく減少し、逆に55歳以上の人口が大幅に増加しており、少子高齢化の人口構造の実態を浮き彫りにしている。

(14頁 図6-1、15頁 図6-2)

(2) 5歳階級別人口

人口総数を5歳階級別にみると、第2次ベビーブーム世代を含む30～34歳が1,140,714人(9.38%)で最も多く、次いで25～29歳の1,017,413人(8.37%)、35～39歳の1,010,113人(8.31%)、55～59歳の900,178人(7.40%)の順となっている。

5歳階級別人口を地域別にみると、区部は30～34歳の792,210人、25～29歳の712,282人、35～39歳の694,152人、55～59歳の605,300人の順となっている。

市部は30～34歳の342,558人、35～39歳の310,650人、25～29歳の300,089人、55～59歳の286,931人の順となっている。

町村部は55～59歳の7,947人(8.83%)が最も多く、次いで50～54歳の7,149人(7.95%)、60～64歳の6,947人(7.72%)の順となっている。(表5)

表5 地域別、年齢(5歳階級別)人口 平成17年1月1日現在 (単位 人、%)

年 齢 (歳)	人 口				構 成 比			
	総 数	区 部	市 部	町村部	総 数	区 部	市 部	町村部
総 数	12 161 029	8 183 907	3 887 161	89 961	100.00	100.00	100.00	100.00
0～4	492 195	316 878	171 820	3 497	4.05	3.87	4.42	3.89
5～9	484 400	305 258	175 239	3 903	3.98	3.73	4.51	4.34
10～14	469 225	293 989	171 131	4 105	3.86	3.59	4.40	4.56
15～19	525 462	329 172	191 725	4 565	4.32	4.02	4.93	5.07
20～24	799 622	525 067	269 939	4 616	6.58	6.42	6.94	5.13
25～29	1 017 413	712 282	300 089	5 042	8.37	8.70	7.72	5.60
30～34	1 140 714	792 210	342 558	5 946	9.38	9.68	8.81	6.61
35～39	1 010 113	694 152	310 650	5 311	8.31	8.48	7.99	5.90
40～44	835 565	568 312	262 323	4 930	6.87	6.94	6.75	5.48
45～49	710 766	478 961	226 354	5 451	5.84	5.85	5.82	6.06
50～54	785 740	523 822	254 769	7 149	6.46	6.40	6.55	7.95
55～59	900 178	605 300	286 931	7 947	7.40	7.40	7.38	8.83
60～64	813 466	543 004	263 515	6 947	6.69	6.64	6.78	7.72
65～69	684 608	461 907	217 200	5 501	5.63	5.64	5.59	6.11
70～74	577 162	394 407	177 724	5 031	4.75	4.82	4.57	5.59
75～79	425 314	295 571	125 582	4 161	3.50	3.61	3.23	4.63
80～84	265 047	187 075	74 993	2 979	2.18	2.29	1.93	3.31
85～89	141 552	99 368	40 484	1 700	1.16	1.21	1.04	1.89
90歳以上	82 479	57 169	24 130	1 180	0.68	0.70	0.62	1.31
年齢不詳者	8	3	5	-	0.00	0.00	0.00	-

(注) 構成比(%) = 各年齢別人口 ÷ 人口総数 × 100

(3) 10 歳階級別人口

① 構成比

人口総数を10歳階級別に10年ごと(昭和60、平成7、17年)の構成比で見ると、平成17年は30歳代が17.69%で最も高く、次いで20歳代(14.94%)、50歳代(13.86%)の順となっている。

これを20年前の昭和60年の構成比と比べると、20歳代以下は20年前より低下し、30歳代及び50歳代以上の階級では構成比が上昇しており、少子高齢化の進展を示している。

次に、10年前の平成7年の構成比と比べると、低下している50歳代を除き、20年前とおおむね同じ様な傾向である。(表6、図2)

② 性比(女 100 に対する男の数)

性比を 10 歳階級別にみると、30 歳代が 108.9 で最も高く、次いで 40 歳代(108.6)、20 歳代(108.5)の順となっている。

性比は 60 歳代で 100 を割り 91.3 となり、年代が進むにつれて低くなり、90 歳以上で 34.4 となっている。(表 6)

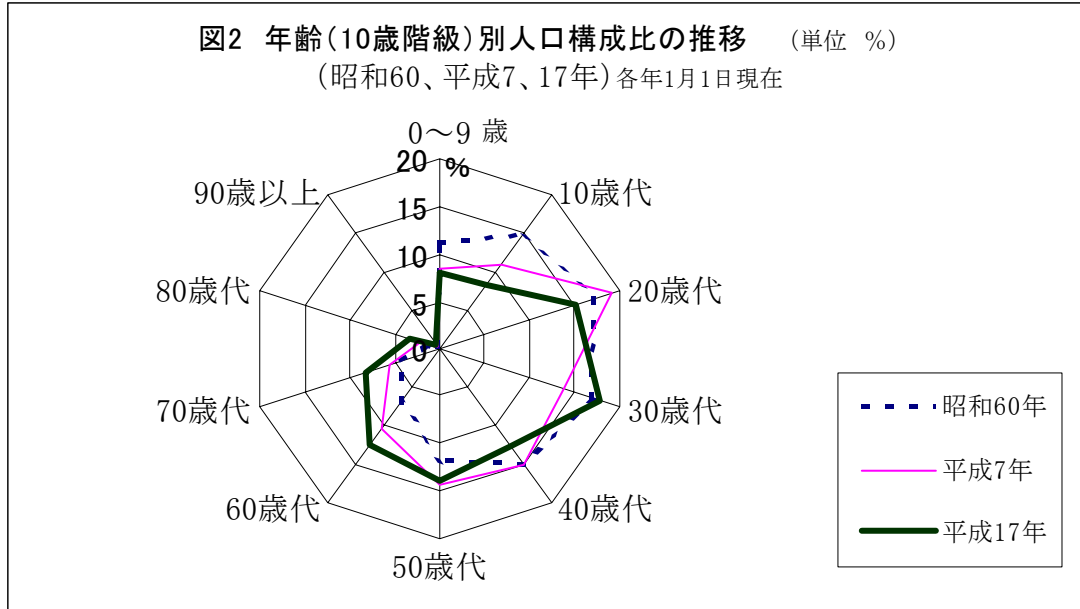


表6 男女別人口の年齢(10歳階級)別構成比及び性比の推移(昭和60、平成7、17年)

各年1月1日現在 (単位 %)

年齢	昭和60年			平成7年			17年			性比(女100人につき男)		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	昭和60年	平成7年	17年
総数	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	101.1	100.1	98.9
0~9歳	11.25	11.45	11.04	8.35	8.54	8.15	8.03	8.28	7.78	104.8	104.9	105.2
10歳代	14.92	15.33	14.50	10.86	11.12	10.59	8.18	8.40	7.96	106.8	105.1	104.3
20歳代	17.15	18.57	15.71	19.00	20.18	17.82	14.94	15.63	14.26	119.4	113.4	108.5
30歳代	16.86	17.59	16.12	13.73	14.55	12.91	17.69	18.54	16.84	110.3	112.9	108.9
40歳代	15.24	14.94	15.55	15.18	15.53	14.83	12.72	13.31	12.13	97.1	104.9	108.6
50歳代	11.82	11.36	12.28	14.27	13.98	14.55	13.86	14.13	13.59	93.5	96.3	102.8
60歳代	6.98	6.00	7.97	10.40	9.77	11.03	12.32	11.82	12.81	76.0	88.7	91.3
70歳代	4.27	3.64	4.92	5.54	4.44	6.64	8.24	7.25	9.22	74.8	66.9	77.8
80歳代	1.39	1.05	1.74	2.36	1.70	3.03	3.34	2.28	4.40	61.3	56.2	51.2
90歳以上	0.11	0.07	0.16	0.31	0.18	0.45	0.68	0.35	1.00	44.2	39.4	34.4

(注) 総数には年齢不詳者を含む。

4 年齢(3区分)別人口

(1) 年齢(3区分)別人口の推移

人口総数を年齢3区分別に見ると、平成17年の年少人口(0～14歳)は、1,445,820人で、前年に比べ10,528人(0.73%)増加した。人口総数に占める割合は11.89%で、平成7年(13.12%)に比べ1.23ポイント低下している。

平成17年の生産年齢人口(15～64歳)は、8,539,039人で、前年に比べ15,469人(0.18%)増加し4年連続の増加となった。しかし、人口総数に占める割合は低下が続いており、70.22%で平成7年(74.07%)に比べ3.85ポイントの低下となった。

平成17年の老年人口(65歳以上)は2,176,162人で、前年に比べ60,434人(2.86%)増加した。また、人口総数に占める割合は17.89%で、平成7年(12.82%)に比べ、5.07ポイント増加し、老年人口が増加の一途を辿っている。(表7-1、7-2、図3)

表7-1 年齢(3区分)別人口の推移(平成7～17年) 各年1月1日現在 (単位 人、%)

年次	年少人口(0～14歳)			生産年齢人口(15～64歳)			老年人口(65歳以上)		
	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率
平成7	1 521 495	△35 755	△ 2.30	8 590 559	△50 990	△ 0.59	1 486 560	57 804	4.05
8	1 491 832	△29 663	△ 1.95	8 549 947	△40 612	△ 0.47	1 545 928	59 368	3.99
9	1 468 773	△23 059	△ 1.55	8 521 425	△28 522	△ 0.33	1 612 425	66 497	4.30
10	1 452 699	△16 074	△ 1.09	8 503 421	△18 004	△ 0.21	1 685 171	72 746	4.51
11	1 440 642	△12 057	△ 0.83	8 496 695	△6 726	△ 0.08	1 757 581	72 410	4.30
12	1 430 154	△10 488	△ 0.73	8 497 436	741	0.01	1 822 748	65 167	3.71
13	1 427 229	△2 925	△ 0.20	8 491 001	△6 435	△ 0.08	1 904 789	82 041	4.50
14	1 427 848	619	0.04	8 500 167	9 166	0.11	1 979 325	74 536	3.91
15	1 432 509	4 661	0.33	8 507 104	6 937	0.08	2 056 589	77 264	3.90
16	1 435 292	2 783	0.19	8 523 570	16 466	0.19	2 115 728	59 139	2.88
17年	1 445 820	10 528	0.73	8 539 039	15 469	0.18	2 176 162	60 434	2.86

(続)

年次	(再掲)老年人口のうち70歳以上			(再掲)老年人口のうち75歳以上		
	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率
平成7	952 995	37 932	4.15	574 111	19 924	3.60
8	998 471	45 476	4.77	597 993	23 882	4.16
9	1 046 281	47 810	4.79	624 960	26 967	4.51
10	1 094 464	48 183	4.61	651 159	26 199	4.19
11	1 145 862	51 398	4.70	679 437	28 278	4.34
12	1 193 987	48 125	4.20	709 247	29 810	4.39
13	1 247 391	53 404	4.47	748 924	39 677	5.59
14	1 304 631	57 240	4.59	788 134	39 210	5.24
15	1 369 146	64 515	4.95	829 013	40 879	5.19
16	1 432 319	63 173	4.61	871 842	42 829	5.17
17年	1 491 554	59 235	4.14	914 392	42 550	4.88

(注1) 増減数(人) = 当該年の区分別人口 - 前年の区分別人口

(注2) 増減率(%) = (当該年の区分別人口 - 前年の区分別人口) ÷ 前年の区分別人口 × 100

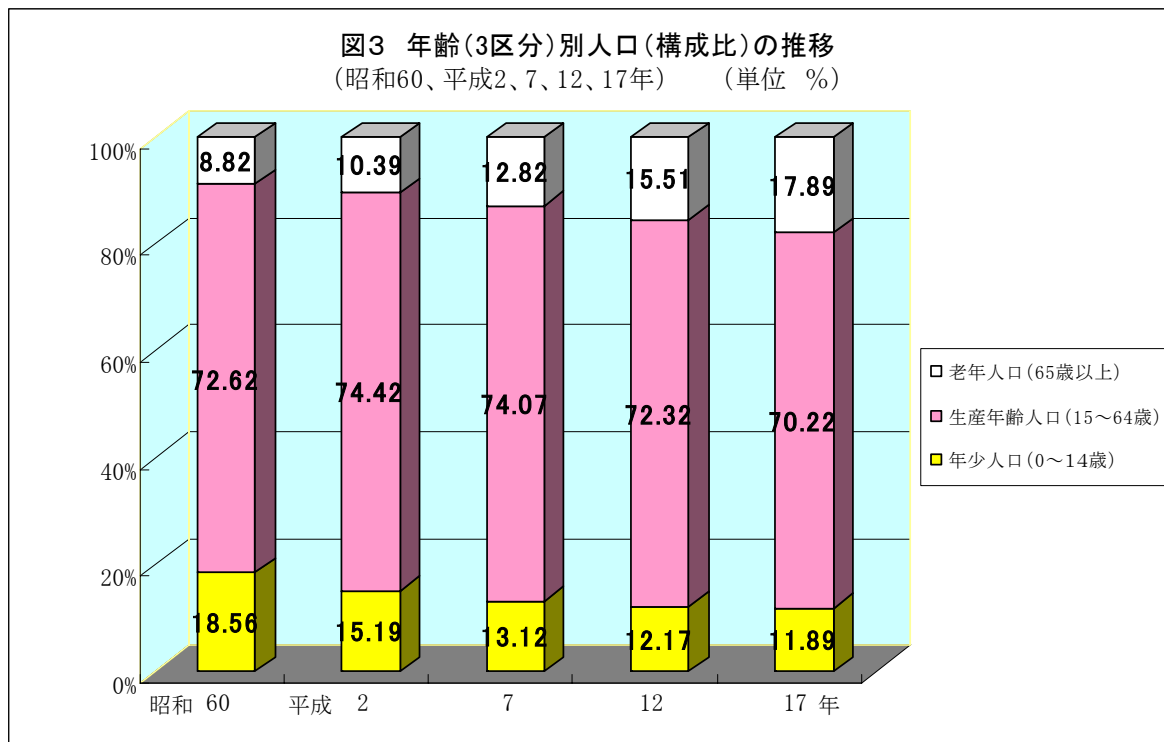
表7-2 年齢(3区分)別人口及び構成比の推移(平成7~17年) 各年1月1日現在 (単位 人、%)

年次	年少人口 (0~14歳)		生産年齢人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳以上)		(再掲)老年人口のうち70歳以上		(再掲)老年人口のうち75歳以上	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
平成7	1 521 495	13.12	8 590 559	74.07	1 486 560	12.82	952 995	8.22	574 111	4.95
8	1 491 832	12.87	8 549 947	73.78	1 545 928	13.34	998 471	8.62	597 993	5.16
9	1 468 773	12.66	8 521 425	73.44	1 612 425	13.90	1 046 281	9.02	624 960	5.39
10	1 452 699	12.48	8 503 421	73.05	1 685 171	14.48	1 094 464	9.40	651 159	5.59
11	1 440 642	12.32	8 496 695	72.65	1 757 581	15.03	1 145 862	9.80	679 437	5.81
12	1 430 154	12.17	8 497 436	72.32	1 822 748	15.51	1 193 987	10.16	709 247	6.04
13	1 427 229	12.07	8 491 001	71.82	1 904 789	16.11	1 247 391	10.55	748 924	6.33
14	1 427 848	11.99	8 500 167	71.39	1 979 325	16.62	1 304 631	10.96	788 134	6.62
15	1 432 509	11.94	8 507 104	70.91	2 056 589	17.14	1 369 146	11.41	829 013	6.91
16	1 435 292	11.89	8 523 570	70.59	2 115 728	17.52	1 432 319	11.86	871 842	7.22
17年	1 445 820	11.89	8 539 039	70.22	2 176 162	17.89	1 491 554	12.27	914 392	7.52

(注) 構成比(%) = 各区分別人口 ÷ 人口総数 × 100

なお、平成17年の老年人口のうち70歳以上は、1,491,554人で前年に比べ59,235人(4.14%)の増加で人口総数に占める割合は12.27%となり、また、75歳以上は914,392人で前年に比べ42,550人(4.88%)の増加で人口総数に占める割合は7.52%となっている。

(表7-1、表7-2、参考表第7表、図3)



(2) 地域別比較

平成17年1月1日現在の年齢(3区分)別人口の構成比を地域別にみると、年少人口の割合は、市部(13.33%)が最も高く、次いで町村部(12.79%)、区部(11.19%)の順となっている。

生産年齢人口の割合は、区部(70.53%)が最も高く、次いで市部(69.69%)、町村部(64.37%)の順となっている。

老年人口の割合は、町村部(22.85%)が最も高く、次いで区部(18.27%)、市部(16.98%)の順となっている。特に、島部の町村(27.24%)で高くなっている。(表8)

表8 地域別、年齢(3区分)別人口 平成17年1月1日現在 (単位 人、%)

地 域	総 数		年 少 人 口 (0～14歳)		生 産 年 齢 人 口 (15～64歳)		老 年 人 口 (65歳以上)	
	人 口	構 成 比	人 口	構 成 比	人 口	構 成 比	人 口	構 成 比
総 数	12 161 029	100.00	1 445 820	11.89	8 539 039	70.22	2 176 162	17.89
区 部	8 183 907	100.00	916 125	11.19	5 772 282	70.53	1 495 497	18.27
市 部	3 887 161	100.00	518 190	13.33	2 708 853	69.69	660 113	16.98
町 村 部	89 961	100.00	11 505	12.79	57 904	64.37	20 552	22.85
郡 部	60 133	100.00	7 753	12.89	39 954	66.44	12 426	20.66
島 部	29 828	100.00	3 752	12.58	17 950	60.18	8 126	27.24

(注)総数には年齢不詳者を含む。

(3) 区市町村別比較

平成17年1月1日現在の年齢(3区分)別人口の構成比を区市町村別にみると、年少人口の割合は、青ヶ島村(19.17%)が最も高く、都全体(11.89%)に比べ7.28ポイント高くなっている。次いで小笠原村(16.11%)、稲城市(15.65%)の順となっている。最も低いのは奥多摩町(7.96%)で、次いで豊島区(8.44%)、渋谷区(8.49%)、檜原村(8.50%)の順となっている。

生産年齢人口の割合は、小笠原村(73.81%)が最も高く、都全体(70.22%)に比べ3.59ポイント高くなっている。次いで渋谷区(73.55%)、多摩市(72.73%)の順となっている。最も低いのは檜原村(52.70%)で、次いで三宅村(53.28%)、奥多摩町(56.85%)の順となっている。

老年人口の割合は、檜原村(38.80%)が最も高く、都全体(17.89%)に比べ20.91ポイント高くなっている。次いで三宅村(37.00%)、奥多摩町(35.19%)の順となっている。

最も低いのは小笠原村(10.08%)で、次いで稲城市(13.36%)、青ヶ島村(14.51%)の順となっている。(4頁 表3)

(4) 全国との比較

平成17年1月1日現在の東京都と全国の直近の平成16年3月31日の人口を比較してみると、東京都は約1216万人、全国は約1億2682万人となっている。

東京都が全国に占める割合は 9.59 % となっている。年齢(3区分)別構成比をみると、東京都の年少人口は 11.89 % で全国より低く、生産年齢人口は 70.22 % で、全国より高く、老年人口は 17.89 % で全国より低くなっている。(表 9、図 4-1、図 4-2)

表 9 年齢(3区分)別人口

(単位 人、%)

区 分	都 *1		全国(参考) *2	
	人 口	構成比	人 口	構成比
総 数	12 161 029	100.00	126 824 166	100.00
年少人口(0～14 歳)	1 445 820	11.89	17 789 885	14.03
生産年齢人口(15～64 歳)	8 539 039	70.22	84 631 007	66.73
老年人口(65 歳以上)	2 176 162	17.89	24 403 257	19.24

*1:本調査(平成 17 年 1 月 1 日現在)。総数には年齢不詳を含む。

*2:総務省自治行政局「住民基本台帳人口要覧」(平成 16 年 3 月 31 日現在)

全国人口総数の年齢別数値は国勢調査の結果数値(毎5年周期の 10 月 1 日)または各年 3 月 31 日の数値しか公表されていないため、直近の数値として、総務省自治行政局「住民基本台帳人口要覧」(平成 16 年 3 月 31 日現在)の数値を使用した。総数には年齢不詳を含む。

図 4-1 都の構成比

(平成 17 年 1 月 1 日現在)

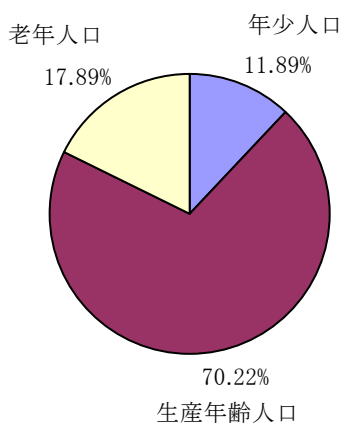
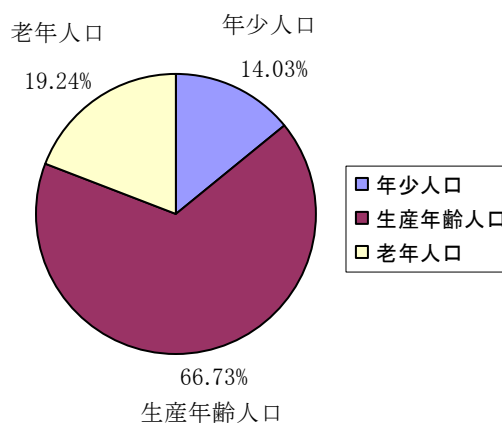


図 4-2 全国の構成比

(平成 16 年 3 月 31 日現在)



5 年齢構造指数

平成 17 年の年少人口指数(年少人口の生産年齢人口に対する比率)は 16.9 で、前年とほぼ同じ値となった。一方、老年人口指数(老年人口の生産年齢人口に対する比率)は、平成 17 年は 25.5 となり前年に比べ 0.7 ポイント上昇した。昭和 32 年からの年齢構造指数の推移を見ると、平成 7 年まで老年人口指数が年少人口指数を下回っていたが、平成 8 年に逆転し、以後、老年人口指数の上昇が続いている。

従属人口指数(年少人口+老年人口の生産年齢人口に対する比率)は、前年より 0.7 ポイント上昇し 42.4 となった。また、老年化指数(老年人口の年少人口に対する比率)は、平成 8 年に 100 を超え、平成 17 年は 150.5 となった。昭和 60 年(20 年前)の老年化指数 47.5 と比べると約 3 倍になった。(表 10、図 5、参考表第 7 表)

(注)年齢構造指数とは、次の指数の総称である。(人口学用語)

$$\text{年少人口指数} = (\text{年少人口}) \div (\text{生産年齢人口}) \times 100$$

$$\text{老年人口指数} = (\text{老年人口}) \div (\text{生産年齢人口}) \times 100$$

$$\text{従属人口指数} = \{(\text{年少人口}) + (\text{老年人口})\} \div (\text{生産年齢人口}) \times 100$$

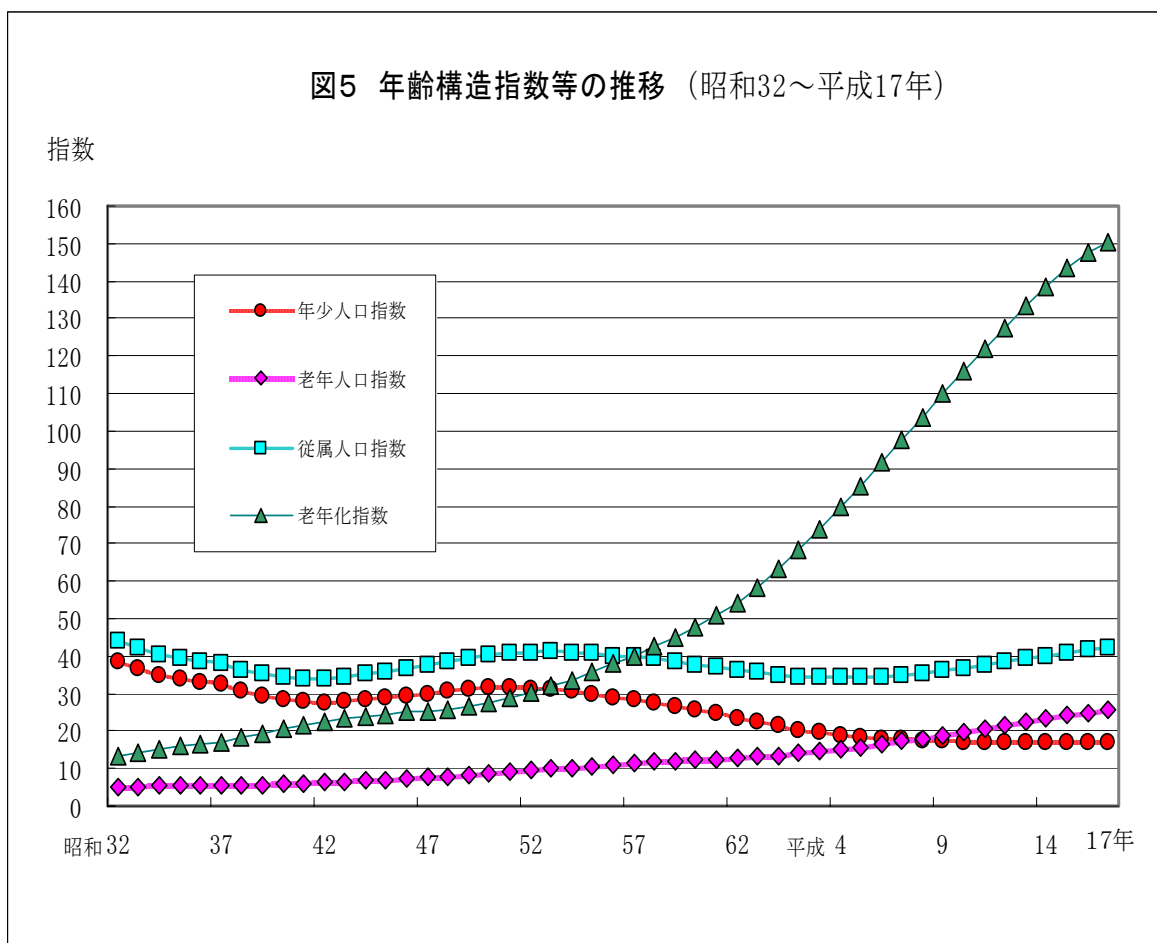
※従属人口指数は、年少人口+老年人口の生産年齢人口に対する比率

$$\text{老年化指数} = (\text{老年人口}) \div (\text{年少人口}) \times 100$$

表 10 年齢構造指数の推移(昭和 60、平成 2、7、12～17 年) 各年 1 月 1 日現在

年齢構造指数	昭和 60	平成 2	7	12	13	14	15	16	17 年
年少人口指数	25.6	20.4	17.7	16.8	16.8	16.8	16.8	16.8	16.9
老年人口指数	12.2	14.0	17.3	21.5	22.4	23.3	24.2	24.8	25.5
従属人口指数	37.7	34.4	35.0	38.3	39.2	40.1	41.0	41.7	42.4
老年化指数	47.5	68.4	97.7	127.5	133.5	138.6	143.6	147.4	150.5

図5 年齢構造指数等の推移(昭和32～平成17年)



6 世帯数

平成 17 年 1 月 1 日現在における東京都の住民基本台帳による世帯総数は 5,842,829 世帯で、前年に比べ 82,249 世帯（1.43%）増加した。

調査開始時である昭和 32 年の 2,021,303 世帯から一貫して増加し、平成 17 年には 2.89 倍となった。1 世帯当たりの人員は、調査開始以来一貫して低下を続け 2.08 人と昭和 32 年（4.09 人）に比べ 2.01 人少なくなっている。

地域別に前年と比べてみると、区部は 4,103,468 世帯で 56,252 世帯（1.39%）の増、市部は 1,701,054 世帯で 25,926 世帯（1.55%）の増、町村部は 38,307 世帯で 71 世帯（0.19%）の増とすべての地域で増加している。1 世帯当たりの人員は、町村部の 2.35 人が最も多く、次いで、市部（2.29 人）、区部（1.99 人）の順となっている。

区市町村別にみると、世田谷区が 412,980 世帯で最も多く、次いで、大田区（321,687 世帯）、練馬区（310,889 世帯）の順となっている。最も少ないのは青ヶ島村（114 世帯）で、次いで、御蔵島村（146 世帯）、利島村（163 世帯）の順となっている。

1 世帯当たりの人員は、あきる野市と瑞穂町が 2.65 人で最も多く、次いで日の出町の 2.62 人の順となっている。最も少ないのは青ヶ島村（1.69 人）で、次いで渋谷区（1.72 人）、新宿区（1.74 人）の順となっている。（表 11、表 12、統計表第 1 表、第 4 表、参考表第 8 表）

表 11 地域別世帯数の推移（平成 7～17 年） 各年 1 月 1 日現在 （単位 世帯、%）

年次	総数			区部			市部			町村部		
	世帯数	増減数	増減率	世帯数	増減数	増減率	世帯数	増減数	増減率	世帯数	増減数	増減率
平成 7	5 054 473	30 888	0.61	3 573 202	14 166	0.40	1 446 762	16 232	1.13	34 509	490	1.44
8	5 103 541	49 068	0.97	3 601 358	28 156	0.79	1 467 096	20 334	1.41	35 087	578	1.67
9	5 166 041	62 500	1.22	3 642 018	40 660	1.13	1 488 332	21 236	1.45	35 691	604	1.72
10	5 239 545	73 504	1.42	3 690 179	48 161	1.32	1 513 242	24 910	1.67	36 124	433	1.21
11	5 324 604	85 059	1.62	3 745 344	55 165	1.49	1 542 626	29 384	1.94	36 634	510	1.41
12	5 401 662	77 058	1.45	3 797 774	52 430	1.40	1 566 810	24 184	1.57	37 078	444	1.21
13	5 489 639	87 977	1.63	3 859 532	61 758	1.63	1 592 610	25 800	1.65	37 497	419	1.13
14	5 585 847	96 208	1.75	3 927 099	67 567	1.75	1 620 901	28 291	1.78	37 847	350	0.93
15	5 679 978	94 131	1.69	3 993 731	66 632	1.70	1 648 139	27 238	1.68	38 108	261	0.69
16	5 760 580	80 602	1.42	4 047 216	53 485	1.34	1 675 128	26 989	1.64	38 236	128	0.34
17 年	5 842 829	82 249	1.43	4 103 468	56 252	1.39	1 701 054	25 926	1.55	38 307	71	0.19

（注 1）増減数（世帯）＝当該年の世帯数 - 前年の世帯数

（注 2）増減率（%）＝（当該年の世帯数 - 前年の世帯数）÷前年の世帯数 × 100

表 12 地域別 1 世帯当り人員の推移（昭和 60、平成 2、7、12～17 年）各年 1 月 1 日現在 （単位 人）

地域	昭和 60	平成 2	7	12	13	14	15	16	17 年
総数	2.52	2.42	2.29	2.18	2.15	2.13	2.11	2.10	2.08
区部	2.42	2.32	2.20	2.09	2.06	2.04	2.02	2.01	1.99
市部	2.81	2.66	2.51	2.38	2.36	2.34	2.32	2.30	2.29
町村部	3.08	2.91	2.71	2.50	2.47	2.43	2.40	2.37	2.35

図 6-1 東京都の人口の年齢構造(平成 17 年 1 月 1 日現在)

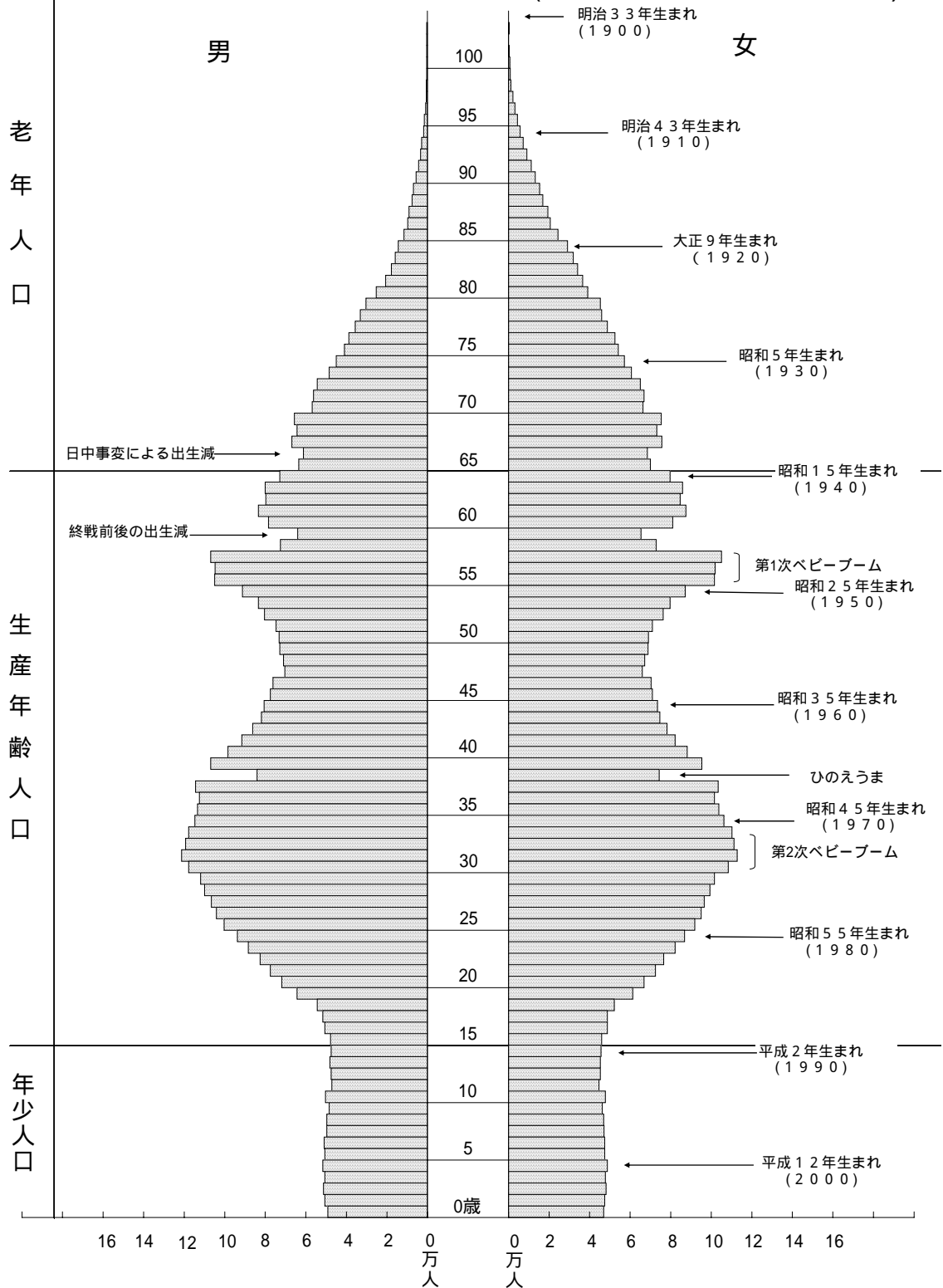


図 6-2 東京都の人口の年齢構造(昭和60年・平成17年)

